

## 神奈川県の平野部におけるミドリヒョウモン、 メスグロヒョウモンの移動について

西村正賢・岸一弘・神部昭夫

On the Movement of *Argynnis paphia* and *Damora sagana*  
in the Plain of Kanagawa Prefecture

Masatoshi NISHIMURA, Kazuhiro KISHI and Akio KANBE

### はじめに

1984年度は例年に比べ、大型ヒョウモン類が多数発生したようである。通常であれば、年に数頭の記録が得られるような地域で1日に何頭も確認することができたり、全く採集記録のない地域で発見されたりしている。それらの記録は新成虫の発生する初夏のものもあるが、夏の終わりから秋にかけてのヒョウモン類の夏眠明けといわれる時期に集中している。福田晴夫他(1983)によれば、大型ヒョウモン類が秋期に山地より平地に移動するということが示唆されており、筆者らの観察でも秋期に汚損著しい個体を平野部において確認したものがあつた。しかし、それらが、山地からの移動個体であるのか、それとも現地で発生した個体であるのかは、推測の域を出ないものである。神奈川県下においても福田晴夫他(前出)により、秋期に横浜市で多数のミドリヒョウモンが飛来したことが記されているが、その詳細は明かではない。そこで、筆者らは、神奈川県昆虫談話会の会員諸氏の協力を得て、1984年度の神奈川県東南部における大型ヒョウモン類の記録をとりまとめるとともに、過去の記録も含め、各地域での生息状況について、書きとめておきたい。

なお、ここでいう大型ヒョウモン類とは、本年、平野部において比較的記録の多く見られたミドリヒョウモンとメスグロヒョウモン(図1)をさすものである。

### 確認記録

目撃記録も含む、1984年までのミドリヒョウモン、

メスグロヒョウモンの確認記録を示した。確認記録は神奈川県昆虫談話会の会員諸氏の資料(すでに発表されたもののほとんどを除く)をもとにしたもので、いうまでもなく県東南部における記録の一部である。今回、集積された記録は便宜的に地区に分割した。

それらは具体的には、県央(厚木市、伊勢原市、秦野市、大和市、綾瀬市)、多摩丘陵(相模原市、川崎市、横浜市緑区)、湘南(藤沢市、茅ヶ崎市、平塚市、中郡)、三浦半島(横浜市南区、横浜市港南区、同市戸塚区、同市磯子区、同市金沢区、逗子市、鎌倉市、横須賀市)である。

### ■ミドリヒョウモン

〈県央地区〉

- 1 ♀, 9. VII. 1984, 厚木市七沢, 伊藤正宏採集.
- 1 ♂, 17. IX. 1982, 伊勢原市日向, 伊藤正宏採集.
- 1 ex., 26. IX. 1984, 大和市中央, 渋谷誠目撃.
- 3 ♂♂ 1 ♀, 24. IX. 1984, 綾瀬市吉岡, 脇一郎採集.
- 3 ♀♀, 30. IX. 1984, 綾瀬市吉岡, 脇一郎目撃.

〈多摩丘陵地区〉

- 1 ♂, 3. VI. 1982, 相模原市橋本, 久保浩一採集.
- 1 ♀, 16. VI. 1982, 相模原市橋本, 久保浩一採集.
- 1 ♀, 24. IX. 1984, 川崎市麻生区黒川, 神部昭夫採集(1 ♂目撃).
- 1 ♂, 23. IX. 1984, 川崎市多摩区生田柗形山, 三浦真理子採集.
- 2 ♂♂, 24. IX. 1984, 川崎市多摩区生田柗形山, 神部昭夫採集.

1♂, 15. IX. 1984, 横浜市緑区新治町, 佐々木彰採集.

1♂, 28. IX. 1984, 横浜市緑区長津田, 西村正賢目撃.

〈湘南地区〉

2♂♂, 17. IX. 1984, 藤沢市長後, 渋谷誠目撃.

3 exs., 24. IX. 1984, 藤沢市長後, 渋谷誠目撃.

1 ex., 28. IX. 1984, 藤沢市長後, 渋谷誠目撃.

6 exs., 20. IX. 1984, 藤沢市西富, 渋谷誠目撃.

2♀♀, 21. IX. 1984, 藤沢市遠藤, 渋谷誠採集.

1♂, 9. IX. 1978, 茅ヶ崎市南湖, 岸一弘採集.

1♂, 13. IX. 1984, 茅ヶ崎市中島, 平井信明目撃.

1♂1♀, 22. IX. 1984, 茅ヶ崎市中島, 平井信明目撃.

1♂1♀, 23. IX. 1984, 茅ヶ崎市中島, 平井信明目撃.

1♂, 27. IX. 1984, 茅ヶ崎市中島, 平井信明目撃.

1♂1♀, 22. IX. 1984, 茅ヶ崎市下寺尾, 北嶋康樹目撃.

2♂♂, 22. IX. 1984, 茅ヶ崎市堤, 岸一弘採集.

3♂♂, 23. IX. 1984, 茅ヶ崎市堤, 岸一弘目撃.

1♂, 29. IX. 1984, 茅ヶ崎市堤, 岸一弘採集.

2 exs., 29. IX. 1984, 茅ヶ崎市堤, 渋谷誠目撃.

2♂♂, 23. IX. 1984, 茅ヶ崎市浜ノ郷, 岸一弘目撃.

2♂♂, 24. IX. 1984, 平塚市下吉沢, 岸一弘目撃.

1♂, 10. VI. 1973, 平塚市万田, 岸一弘採集.

1♀, 23. IX. 1974, 平塚市万田, 岸一弘採集.

2♂♂, 8. VI. 1982, 平塚市万田, 平井信明採集.

10 exs., 23. IX. 1984, 平塚市万田, 深谷昭廣目撃.

2♀♀, 24. IX. 1984, 平塚市万田, 深谷昭廣目撃.

1♂1♀, 8. IX. 1984, 平塚市高根, 深谷昭廣目撃.

2♂♂, 9. IX. 1984, 平塚市高根, 深谷昭廣目撃.

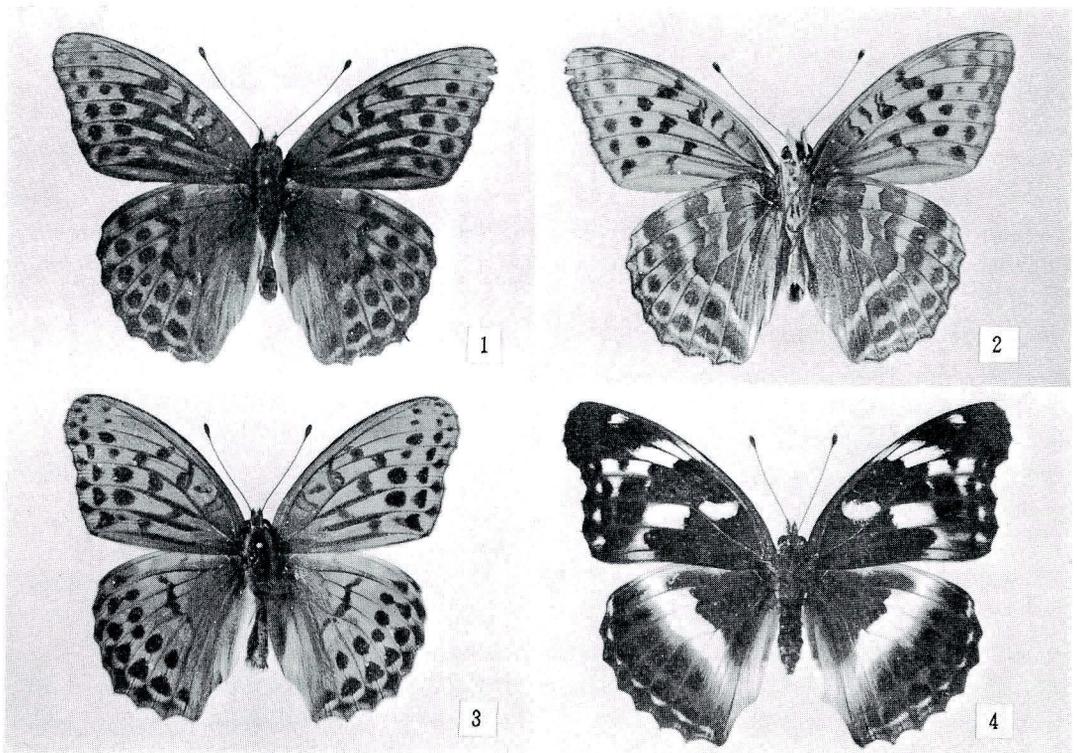


図-1 1. ミドリヒョウモン (雄) 2. 同, 裏面  
3. メスグロヒョウモン (雄) 3. 同, (雌)

1 ♀, 18. IX. 1981, 中郡大磯町高麗山, 岸一弘目撃.  
 1 ♀, 2. X. 1963, 中郡大磯町西小磯, 波多野収三採集.  
 2 ♂♂, 23. IX. 1984, 中郡大磯町西小磯, 波多野収三採集.  
 1 ♂, 23. IX. 1973, 中郡大磯町大磯, 岸一弘採集.  
 1 ♂, 24. IX. 1984, 中郡大磯町生沢, 岸一弘採集.  
 2 ♂♂ 2 ♀♀, 30. IX. 1984, 中郡大磯町生沢, 渡辺康生採集.  
 〈三浦半島地区〉  
 1 ♂, 25. IX. 1984, 横浜市南区中村町, 武田政弘採集.  
 1 ♂ 1 ♀, 11. IX. 1984, 横浜市港南区港南台, 久保浩一採集.  
 1 ♂, 24. IX. 1984, 横浜市戸塚区上郷町瀬上池, 渡弘採集.  
 2 ♀♀, 30. IX. 1984, 横浜市戸塚区上郷町瀬上池, 久保浩一採集.  
 1 ♂, 23. IX. 1984, 横浜市戸塚区舞岡町, 高桑正敏目撃.  
 1 ♂, 24. IX. 1984, 横浜市磯子区永取沢, 久保浩一採集.  
 1 ♂ 1 ♀, 30. IX. 1984, 横浜市磯子区永取沢, 久保浩一採集.  
 1 ♂, 22. IX. 1984, 横浜市金沢区泥亀町, 小室研一目撃.  
 1 ♀, 27. IX. 1984, 横浜市金沢区寺前町, 小室研一目撃.  
 1 ♂, 25. IX. 1984, 横浜市金沢区富岡町, 久保浩一採集.  
 1 ♂, 23. IX. 1984, 横浜市金沢区金沢町, 小室研一目撃.  
 1 ♂, 9. IX. 1984, 横浜市金沢区六浦町, 岡部洋一目撃.  
 2 ♂♂, 10. IX. 1984, 横浜市金沢区釜利谷町, 中村進一目撃.  
 1 ♂, 24. IX. 1984, 横浜市金沢区釜利谷町, 岡部洋一採集.  
 2 ♂♂, 30. IX. 1984, 逗子市逗子, 岸一弘目撃.  
 8 ♂♂, 24. IX. 1984, 鎌倉市稲村ヶ崎, 津久井不二雄採集.  
 1 ♂, 24. IX. 1984, 鎌倉市七里ヶ浜, 津久井不二雄採集.  
 14exs., 10. IX. 1984, 横須賀市鷹取山, 岡部洋一目

撃.  
 1 ex., 13. IX. 1984, 横須賀市鷹取山, 岡部洋一目撃.  
 1 ♂, 15. IX. 1984, 横須賀市鷹取山, 岡部洋一採集.  
 1 ex., 28. VIII. 1984, 横須賀市三春町, 石渡裕之目撃.  
 1 ♂, 25. IX. 1984, 横須賀市本町, 小室研一目撃.  
 1 ♂, 26. IX. 1984, 横須賀市本町, 小室研一目撃.  
 3 exs., 24. IX. 1984, 横須賀市大楠山, 光山昌宏採集.  
 2 exs., 24. IX. 1984, 横須賀市大楠山, 竜崎大輔採集.  
 3 exs., 24. IX. 1984, 横須賀市林, 光山昌宏・竜崎大輔目撃.  
 5 exs., 24. IX. 1984, 横須賀市芦名口, 光山昌宏・竜崎大輔目撃、

#### ■メスグロヒョウモン

〈県央地区〉

1 ♀, 29. VII. 1984, 秦野市峠, 岸一弘目撃.  
 1 ♀, 8. IX. 1984, 厚木市七沢, 伊藤正宏採集.

〈多摩丘陵地区〉

1 ♂, 24. VI. 1983, 川崎市麻生区黒川, 神部昭夫採集.  
 1 ♀, 1. VII. 1984, 川崎市麻生区黒川, 神部昭夫採集.  
 1 ♂, 28. IX. 1984, 横浜市緑区長津田, 西村正賢目撃.

〈湘南地区〉

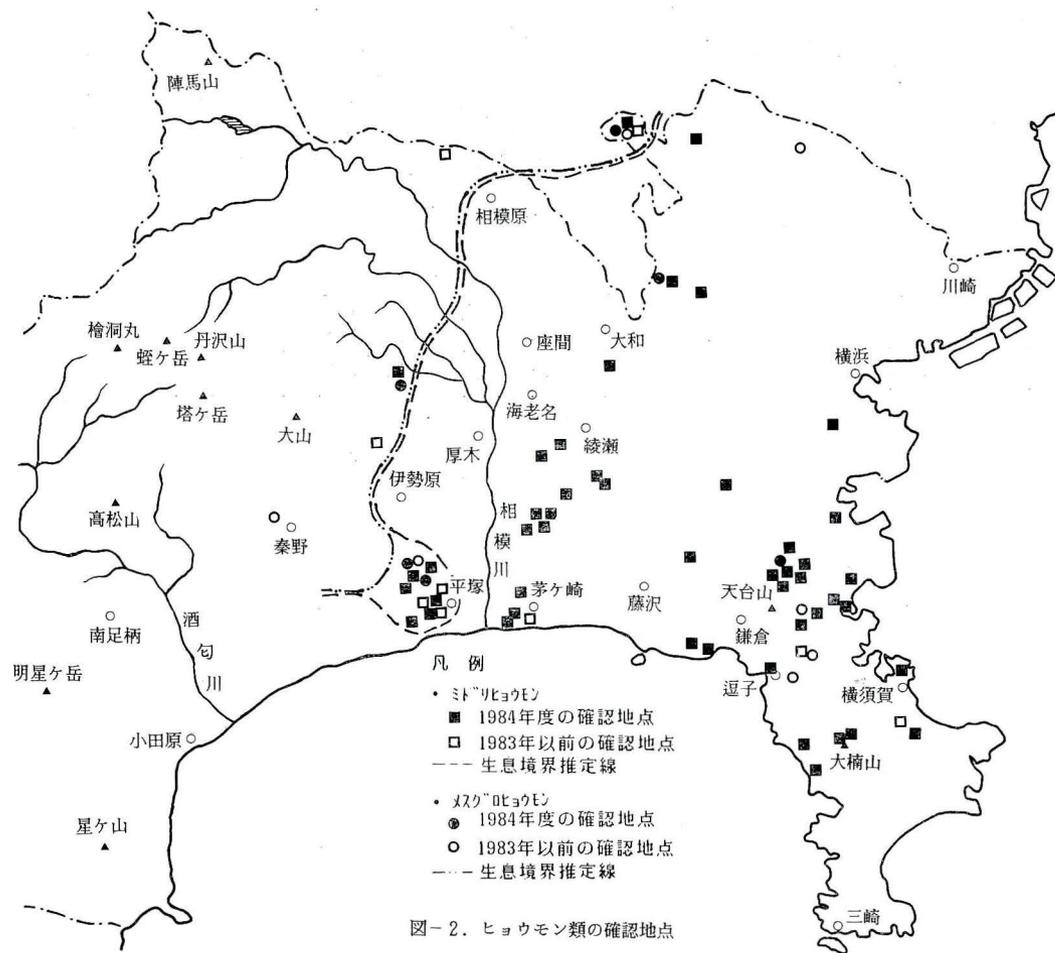
2 ♀♀, 18. IX. 1983, 平塚市土屋, 山内達也採集.  
 1 ♀, 23. IX. 1984, 平塚市土屋, 山内達也採集.  
 1 ♂, 24. IX. 1984, 中郡大磯町寺坂, 岸一弘採集.

〈三浦半島地区〉

1 ♂, 24. IX. 1984, 横浜市磯子区永取沢, 久保浩一採集.

#### 各地域の生息状況

現時点では、ヒョウモン類の移動については、先にも述べたように確認された個体から判断することは困難である。また、アサギマダラのようにマーキングによる追跡調査がされたという報告もないようだ。現在、ヒョウモン類の移動について報じられているほとんどが確認地点における生息状況を知ることにより判断したものと考えられる。そこで、筆者らも、前述したように便宜的に分割した4地区の生息状況を過去の記録などをもとにしてとりまとめてみたい。



## 県央地区

伊藤正宏氏の私信によればミドリヒョウモンの記録は、本報告以外では厚木市の飯山、岡津古久、伊勢原市の子易、愛川町の八菅山などであり、これらの地域では発生個体数は少ないものの定着発生していると言う。

また、本報告にある厚木市七沢の記録は野外の蛹より羽化したもので、同地における発生を裏付ける記録と言える。

他の記録としては、大和市、綾瀬市のものが挙げられているが、これらの地域を含む、相模川以東の地域では、断続的に樹林も残され、ヒョウモン類の食草となるスマレ類も見られるが生息の可能性は低いと言う。

メスグロヒョウモンについても、採集記録こそ少ないが、目撃による過去の記録も含め、ミドリヒョウモンとほぼ同様の生息域が考えられる。

## 多摩丘陵地区

筆者の一人、神部によれば、ミドリヒョウモンは、多摩丘陵東方に位置する多摩区生田において確認されたが、本地域での生息の可能性はきわめて低いと思われる。

記録された生田枳形山周辺は小田急線、田園都市線、東名高速道路に挟まれた地域で、住宅、団地、学校等が建ち並び、都市化が著しく、自然緑地はほとんど見られない。緑区における記録も同様で、比較的規模の大きな緑地が見られるものの鳥状であり、生息の可能性は低い。これは、緑区自然保護懇話会発行の「赤田通信」にあるようにミドリヒョウモンの記録が1984年までないことからもうなずける。

また、これらの地域とは異り、麻生区黒川の確認地点はコナラ、クヌギなどを中心とした樹林が広く見られ、それらの間には、草地も点在し、ヒョウモン類の生息環境としては好適といえる。麻生区黒川では、ミドリヒョウモンの他にメスグロヒョウモンの記録もあり、両種とも、未発表ながら毎年確認されている。この地域は、さらに町田市小山町、相模原市橋本、そして、高尾山へとヒョウモン類の確認記録の多い緑地を西方にほぼ連続して持つことからミドリヒョウモン、メスグロヒョウモンの生息の可能性は高い。

## 湘南地区

今回の報告でミドリヒョウモンの記録がもっとも多

く集められた地域である。筆者の一人、岸の観察によると、藤沢市、茅ヶ崎市といった相模川以東の地域は、過去に記録がないことから生息の可能性は低いと考えられる。

一方、相模川以西の中郡大磯町の北方の地域では、平坦な相模川以東とは異なり、海岸線から近いにもかかわらず、広域の樹林を持つ丘陵に恵まれ多様な環境を呈している。この地域は古くからミドリヒョウモンの記録があり、産卵行動なども観察され、生息の可能性がきわめて高い所である。メスグロヒョウモンについては、過去において、わずかに記録が見られるが同地域での生息の可能性は低い。

## 三浦半島地区

筆者の一人、西村の観察によれば、この地区のミドリヒョウモンの記録は1970年代前半より見られるが、そのほとんどが秋期のもので、汚損の状態も著しい個体である。過去の記録および新成虫の記録がほとんどないことから当地区での生息の可能性は低い。また、メスグロヒョウモンについても同様、現在では生息の可能性が低いものである。高桑正敏氏の私信によれば、メスグロヒョウモンは、1960年代前半には、三浦半島基部においては、生息していたと言う。しかし、現時点では、それらの生息地は宅地造成等による環境改変で見る影もないという。

## まとめ

各地区のミドリヒョウモン、メスグロヒョウモンの生息状況を把握することにより、それぞれの生息推定域を設定した。この地域はミドリヒョウモンでは、麻生区黒川—相模原市橋本—愛川町八菅山—厚木市七沢—平塚市土屋—中郡大磯町を境界とする、それ以西である。また、メスグロヒョウモンについても、ほぼ同様の生息域を示すが、それらから大磯丘陵を除くものとする。従って筆者らは、この生息推定域以東で確認されたミドリヒョウモン、メスグロヒョウモンについては他地域からの移動と考え、さらに記録の集積を行うことにより今後の検討資料としたい(図2参照)。

なお、本稿を草するに当たり、貴重な記録を提供された以下に示す方々、また、ヒョウモン類の生息状況をお知らせ下さった、高桑正敏、伊藤正宏の両氏には紙面を借りて深謝したい。

(アルファベット順、敬称略)

深谷昭廣、波多野収三、平井信明、石渡裕之、北嶋

康樹，小室研一，久保浩一，光山昌宏，中村進一，岡部洋一，竜崎大輔，佐々木彰，渋谷誠，多田内修，武田政弘，津久井不二雄，脇一郎，渡弘，山内達也

#### 参考文献

日浦 勇 1973 海をわたる蝶，蒼樹書房，東京.

福田晴夫他 1983 原色日本蝶類生態図鑑（Ⅱ），保育社，大阪.

緑区自然保護懇話会 1984 赤田通信（25）.

三浦半島昆虫研究会 1978 三浦半島の蝶，横須賀市博物館研究報告（24）：25.

（西村正賢・岸一弘・神部昭夫：神奈川昆虫談話会）